




## 普及活動情勢報告（令和5年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ドローンによる薬剤散布実演会 ～JA高知県四万十生姜部会栽培研究会～	
	<p>9月26日、JA高知県四万十生姜部会栽培研究会を対象に、露地ショウガにおけるドローン防除実演会を行い、6名が参加しました。</p> <p>普及所から、県内のドローン導入状況や利用時に必要な申請等について情報提供した後、普及指導員によるドローン飛行の実演を現地ほ場で行いました。</p> <p>ドローン防除を初めて見た生産者が多く、薬剤のかかり方、音、ダウンウォッシュの様子や、ドローンの重さの確認もしてもらいました。</p> <p>生産者からは「ドローンを運ぶ時にはどこを持っていいのか」「こんなにドローンが大きかったのか」などの声が聞かれ、保険、操縦方法、飛行高度等について多くの質問があり、興味津々な様子が見られました。</p> <p>普及所はショウガの労力軽減と生産安定に向け、スマート農業の導入を推進していきます。</p>

「にこまる」の適期収穫にむけて ～JA高知県四万十エコ栽培米生産部会～	
	<p>9月27日、JA高知県四万十エコ栽培米生産部会（にこまる）の収穫前現地検討会が開催され、生産者12名が参加しました。</p> <p>普及所は参加者全員のほ場を巡回しながら、適期収穫の重要性や出穂後の積算気温による収穫時期の目安を説明し、活発な意見交換が行われました。</p> <p>生産者からは、「収穫時期が早いと青未熟粒、遅いと胴割粒や穂発芽が発生し、品質低下につながることを再認識できた」「今後も高温が予報されていることから、平年に比べ収穫時期がやや早くなる可能性があることを理解できた。適期を逸することのないように注意したい」といった声が聞かれました。</p> <p>普及所は、今後も管内の高品質米安定生産を支援していきます。</p>

安定した有機ショウガづくりをしよう！ ～しまんと畑生産者会 現地検討会～	
	<p>10月11日、四万十町の有機農業者で構成される「しまんと畑生産者会」のショウガ現地検討会が開かれ、農業者8名が参加しました。</p> <p>4か所のほ場を巡回し、農業者自らが作成した栽培履歴を元に、今作における病害発生状況と対策、収穫量見込などについて意見が交わされました。普及所からは、障害の診断ポイントや化学合成された資材を使用しない施肥改善対策などを提案しました。</p> <p>参加者は自身の栽培にあった対策を模索するため、施肥だけでなく緑肥や輪作品目への質問も多く、積極的に情報収集していました。</p> <p>普及所は、今後も有機栽培の生産安定に向けた実証ほの提案や勉強会の開催など、農業者組織の活動を支援していきます。</p>

「人参芋」の収穫が始まります

～四万十の芋プロジェクト協議会～



参加者で出荷規格を確認

10月17日、四万十の芋プロジェクト協議会が主催する令和5年産のサツマイモ目慣らし会が開催され、生産者・関係者など約40名が参加しました。

目慣らし会では、協議会事務局の四万十ドラマから出荷規格や受け込みのスケジュール・注意点の説明があった後、普及所より土づくりなど次年度に向けた栽培のポイントを説明しました。

生産者からは、「適切な土壌pHはどれくらい？」「堆肥の施用はいつまでにやれば良い？」などの質問がありました。

普及所では、今後も四万十川流域の環境と調和した、安全安心な加工用サツマイモの生産を支援していきます。